

再住妙心當山四世永香宗禪師大和尚

平成三十一年四月十四日 示寂

享年 九十歲

# 津送記録

平成三十一年四月十六日 通夜

四月十七日 密葬

令和元年五月三十一日 本葬

周岳山 政林寺



差定

總監

海國和尚

知客

大法和尚

大須

總見和尚

總持和尚

光勝閑栖和尚

清須

總見副住和尚（典札）

副司

慈雲和尚

濟松和尚

凌雲和尚

大須

總見副住和尚

德授副住和尚

雲衲一位

知殿

光勝和尚

靈光和尚

松下

觀音和尚

德授副住和尚

東照和尚

靈泉和尚

三應

靈光和尚

玉林和尚

雲衲一位

典座

慈雲寺閑栖和尚

尊侍兼  
茶頭

長盛和尚

同夏和尚

雲衲一位

右

役配

秉炬導師 古月庵老大師

奠茶導師 孤雲室老大師

奠湯導師 禪隆閑栖大和尚

新忌齋導師 古月庵老大師

密葬導師 海國和尚

起龕導師 大法和尚

鎖龕導師 総持和尚

通夜導師 光勝閑栖和尚

安骨導師 大須 総見和尚

侍真 大法和尚

侍衣 玉林和尚

侍香 雲衲一位

押送 大法和尚

引請 大須 総見和尚

直歳 慈雲和尚

維那 光勝和尚

六役 光勝和尚

靈光和尚

松下 観音和尚

徳授副住和尚

東照和尚

靈泉和尚

右

上告

午前九時五十分殿鐘支度同連声本威儀出頭  
正宗大和尚津送 四弘誓願裡導師入堂  
開式ノ辞 鼓鉞四・二・三三通 両班退席  
大本山妙心寺並檀信徒総代弔辞引続弔電  
披露了而山頭念誦 奠湯禪隆閑栖大和尚香語  
奠茶孤雲室老大師香語 小師三拜  
秉炬古月庵老大師法語 楞嚴咒一・五段  
座誦 読経中遺族並会葬者焼香回向了而  
謝辞 閉式ノ辞 鼓鉞三通  
導師尊宿退堂 小憩  
午前十一時三十分殿鐘支度法鼓出頭 新忌齋  
奠供九拜拈香 大悲咒座誦回向 了而 退堂  
於本堂出齋 散筵

右

小知客欽白

謹告

午前九時五十分殿鐘支度同連声本威儀出頭  
正宗大和尚津送 四弘誓願裡導師入堂  
開式ノ辞 鼓鉞四・二・三三通 両班退席  
大本山妙心寺並檀信徒総代弔辞引続弔電  
披露了而山頭念誦 奠湯禪隆閑栖大和尚香語  
奠茶孤雲室老大師香語 小師三拜  
秉炬古月庵老大師法語 楞嚴咒一・五段  
座誦 読經中遺族並会葬者焼香回向了而  
謝辞 閉式ノ辞 鼓鉞三通  
導師尊宿退堂 小憩  
午前十一時三十分殿鐘支度法鼓出頭 新忌齋  
奠供九拜拈香 大悲咒座誦回向 了而 退堂  
於本堂出齋 散筵

右

小知客敬白

五月三十一日 津送 式次第

九時五十分

殿鐘支度

在家

知客・総持和尚

同連声出頭

尊宿

知客・総見和尚

四弘誓願中導師出頭

大方

知客・大法和尚

鼓鉞 四・一・三 三通

奠湯 導師

知客・光勝閑栖和尚

奠茶 導師

知客・海國和尚

秉炬導師

知客・海國和尚

一、開式の辞

檀信徒総代

関谷 博

一、弔辞

大本山妙心寺

徳授大和尚

檀信徒総代

木下 周大

一、弔電披露

一、山頭念誦

一、奠湯

禅隆閑栖大和尚

湯

徳授副住和尚

一、奠茶

孤雲室老大師

茶

松下 観音和尚

一、小師三拝

一、秉炬

古月庵老大師

炬火

総持和尚

一、焼香

楞嚴咒一・五段

一、謝辞

檀信徒総代

国光 健次

一、閉式の辞

女性部会長

木下 登志子

鼓鉞三通

退堂

小憩

十一時三十分

殿鐘支度法鼓出頭

新忌斎導師

新忌斎 奠供九拝

拈香

古月庵老大師

大悲咒座誦 回向

尊宿 知客・総見和尚

退堂

大方 知客・光勝閑栖和尚

十二時三十分

本堂にて出斎

導師 知客・海國和尚

散筵

侍真 大法和尚

# 開式の辞

よんせいししょうじゅうおしろう

シンソウ

只今より当山四世正宗和尚様の津送本葬儀を

取行います



# 弔詞

しょうじゅう

謹んで正宗和尚様の津送に当たり

檀信徒を代表致しまして哀悼の辞を申し述べます

かえりみますれば正宗和尚様は昭和三十五年二月当山副住職とし

せんげ

て入山され、同年七月に先住職純堂和尚様が遷化され第四世住職  
となられました

昭和四十七年には本堂及び庫裡の改修工事を行いました。平成三  
年五月には熱田の地より現在の天白の地に移転という大事業を行

ふしん

ない、本堂、書院、庫裡を普請されて、檀信徒の安らぎとご供養  
の場を提供して頂きました。文字通り当山の面目を一新されてま  
さに寺門の興隆、発展に尽くされました

また平成元年には直腸の半分を切除する大手術をされましたが、  
仏天のご加護と和尚様のお徳により再びお元気なお顔を見ること

あんど

が出来、檀家一同安堵したことを覚えていきます。

しょうじゃひつめつ

えしやじょうり

しかるに、生者必滅、会者常離は世の常とはいえ 五十年間と  
いう長きにわたり 私たち檀信徒一同をしっかりと信心の道を歩  
ませて頂き、ありがとうございます

和尚様とお別れをせねばならないことは返す返すも残念でなりま  
せん。気安い中に真実と思いやりの有ったお人柄をしのぶ時、  
ばんかん

万感胸に迫り惜別の情、耐え難く切なるものがございます

ここに心からご冥福をお祈りし御霊前において和尚様の真実を身  
かて

体で語られた尊い教えを心の糧として当山の護持と花園会員と  
しての自覚のもとにその責任を全うすべく益々精進努力すること  
をお誓い申し上げて弔詞と致します

令和元年五月三十一日

政林寺檀徒総代

木下 周大

謝 辞

ホンジツ

しょうじゅうおしよさま

本日は御多用にもかかわらず 正宗和尚様の葬

儀に際し 京都 龍泉庵 古月庵老大師 一宮

りょうせんあん

こげつあんろうだいし

いちのみや

みょうこうじ

こうんしつろうだいし

いいたまち

ぜんりゅうじかんせい

妙興寺 孤雲室老大師 飯田町 禅隆寺閑栖

だいおしょう

りんせき

大和尚様 始め沢山の和尚様方のご臨席を賜り

げんしゆく

シンソウ

しゅうぎょう

厳粛な津送 本葬儀を修行頂き 檀信徒を代

表いたしましたして心より御礼申し上げます

また 大勢の檀信徒の御会葬、ご焼香を賜りまし

たこと御礼申し上げます 取り込み中のこと

多々不行き届きの点もあつたかと存じますが

何卒ご寛容下さいますよう御願ひ申し上げます

本日は誠にありがとうございました

# 閉式の辞

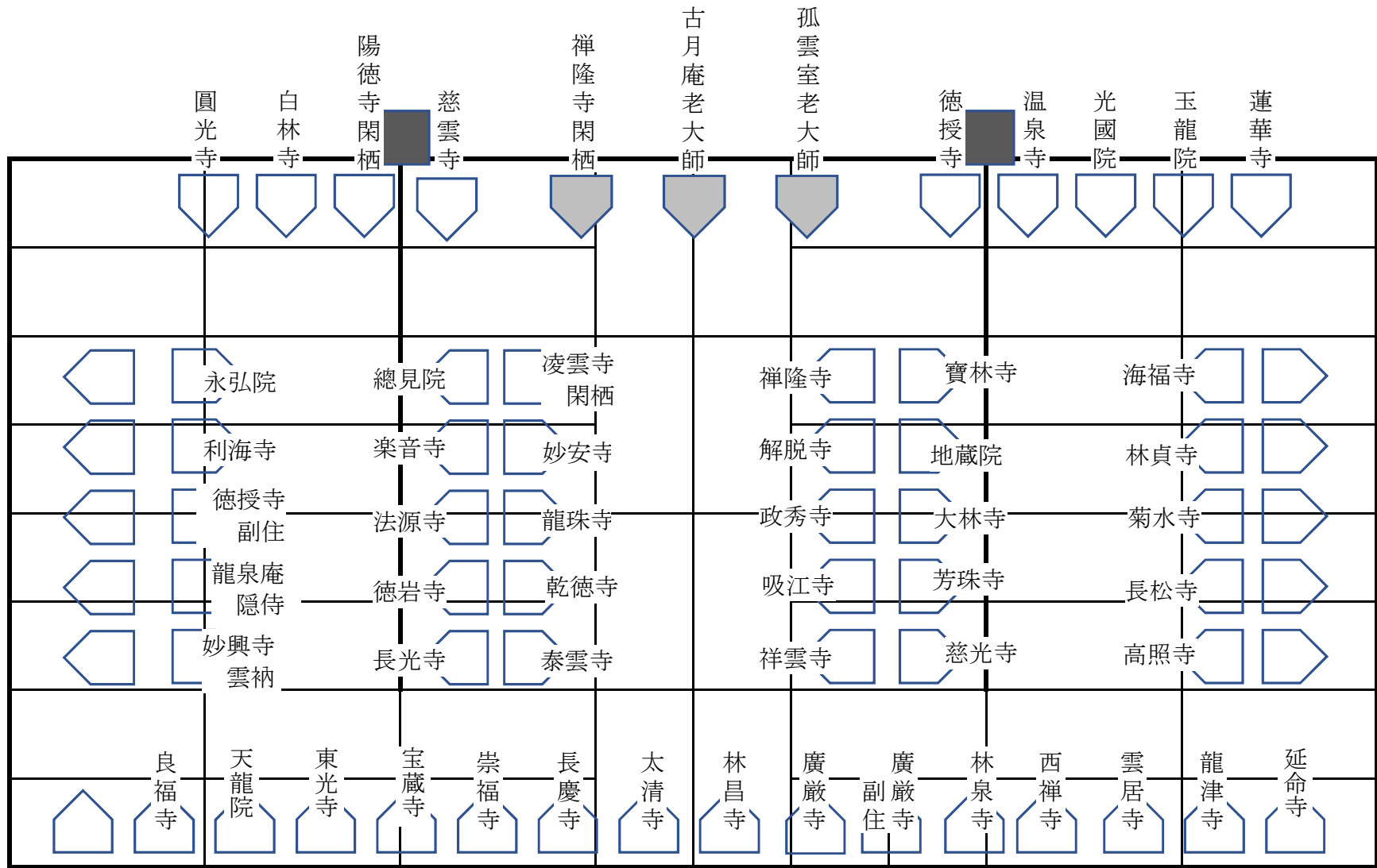
これにて当山よんせいししょうじゅうおししょう四世正宗和尚シンソウ様の津送本葬儀を

閉式とさせていただきます

本日は誠にありがとうございました

# 政林寺本堂 配置図

## 須弥壇



欽啓上 時下暑氣漸加の候

伏惟

堂頭老大和尚大座下震良倍々御清安の条大慶に  
存じます

専陳者 過般拙寺正宗和尚津送並び新忌齋に際し  
御遠路且御多用中の処御来駕を賜わり又 御鄭重  
なる御弔儀 御香資等を度備下され厚く御礼申し  
上げます 御陰を以ちまして無事円成させて頂き  
ましたことは各々諸老宿の御法愛と御指導の賜と  
重ねて衷心より御礼申し上げます  
本来ならば拜趨の上深謝申し上げるのが本意で  
御座いますが略儀乍書中を以ちまして御礼申し上  
げます

誠恐惶頓首敬白

令和元年五月三十一日

政林小住

好正九拜

欽啓上 時下暑氣漸加の候

伏惟

堂頭老大和尚大座下震良倍々御清安の条大慶に  
存じます

専陳者 過般拙寺正宗和尚津送並び新忌齋に際し  
御鄭重なる御弔儀 御香資等を賜わり厚く御礼申し  
上げます 御陰を以ちまして無事円成させて頂き  
ましたことは各々諸老宿の御法愛と御指導の賜と  
重ねて衷心より御礼申し上げます  
本来ならば拜趨の上深謝申し上げるのが本意で  
御座いますが略儀乍書中を以ちまして御礼申し  
上げます

誠恐惶頓首敬白

令和元年五月三十一日

政林小住

好正九拜

謹啓

時下益々御清祥の段 大慶至極に存じ上げます

陳者先般當山四世曾我部正宗大和尚遷化の際は  
御鄭重にも御香志を賜わりました御芳情の程  
誠に有難く御礼申し上げます

お蔭をもちまして此度當山四世曾我部正宗大和尚  
本葬儀を無事滞りなく務める事が出来ました  
就きましては心ばかりの品を御用意させて頂き  
ましたので 何卒御受納下さいますよう御願  
い申し上げます

先ずは略儀ながら書中を以て謹んで御礼申し  
上げます

敬具

令和元年五月三十一日

周嶽山 政林寺